

3.6「燃料パイプライン反対集会」開かる

日刊
労働千葉

80.3.12

No. 373

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二五八〇九(公衆電話三二七二〇七)

3月6日、花見川に隣接した「千葉市・幕張公園」で、「80年三里塚決戦勝利・パイプライン埋設反対・花見川強行工事阻止・幕張現地集会」が開かれ、幕張・千葉・津田沼・新子岩青年部も参加し、地区共闘・パイプライン沿線住民と共に闘いぬいた。

二期攻撃の開始パイプライン埋設突貫工事の強行を許すな

このパイプラインは、千葉港から三里塚空港へジェット燃料を送るためのものであるが、その危険性ゆえに沿線住民からの猛烈な反対をうけ一旦埋設したパイプをまた掘り出し撤去するといったいわくつきのものである。ところが二年前より政府・空港公団および千葉市当局は、この広汎な反対の声をふみにじって、当初より「最も危険」といわれていた「花見川ルート」を決定し、強行工事に移そうとしているものである。

「三里塚空港反対・ジェット燃料輸送阻止、千葉県青年共闘会議」の主催でもたれたこの集会には、動労千葉をはじめ県下各単産からの青年労働者、沿線住民一〇〇名が参加し、闘いの強化拡大を確認したのち、建設予定地帯をとりまくデモ行進で住民に呼びかけつつ、大きな反響をよび起しながら貫徹された。

『生命を守るため断固闘う！』

—花見川・真砂地区住民からの決意表明—



集会は、午後一時半、空港反対同盟を代表して市東東市さんのあいさつで始められた。市東さんは「政府・公団は農振策・成田用水・農協移転問題などにみられる卑劣な反対同盟つぶしをもって二期攻撃を開始している。しかし、われわれは『戸村精神』をもって、あくまで闘いぬく」と断固たる決意を明らかにした。続いて動労千葉を代表して田中康宏青年部長が「今や燃料問題は敵の最大のネックに破綻点と化

している。パイプライン反対闘争の勝利と結合し、われわれは暫定貨車輸送の期限の切れる八一年三月に文字通りこの反人民的空港にトドメをさす大闘争を準備している。」と鮮明な決意を表明した。

パイプライン通過に反対し闘っている、花見川河口の真砂地区住民から「空港公団・市当局は『説明会を開いた』という事実さえ作ればよいという態度であり、安全性などについてさえ何も説明できないありさまだ。突貫工事を強行するなどんでもない。生命を守るため断固反対して闘う』旨の実情報告が述べられ全体は拍手で確認した。

『危険きわまりないパイプライン計画』

—生越教授が特別講演—

青年共闘会議からの基調報告でパイプラインの危険性、二期工事強行に走る政府・公団と現地情勢が克明に述べられ、いまこそ反対同盟・動労千葉・沿線住民を軸に広汎な運動を作り上げ「空を断つ」ための方針提起がなされ、圧倒的拍手で確認された。

この日のためにはるばる駆けつけてこられた和光大学教授(地質学)生越忠氏からの約一時間にわたる特別講演が行なわれた。生越氏は「花見川に限らず北総一帯にはきわめて軟弱な地層がありパイプラインは地震・地盤沈下で破断される危険が大きい。しかもその上、マイナス28度で引火する燃料に30気圧というとても高い高圧をかけて送り出すパイプを人口密集地とか、川底という最悪条件の中で強行するなど世界に類例のない無謀な計画……」と、その無謀性を全面的に明らかにした。

三里塚農民・沿線住民と連帯して『空港の命脈を断つ』ため決起しよう！

—石幡幕張青年部長決意表明—

その後、動労幕張支部石幡青年部長をはじめ、青年共闘、三里塚現地等各界からの決意表明がなされたのち、全員で宣伝カーを元通りに幕張地区を一巡する約四km・一時間半のデモを貫徹した。住民の関心が高く、皆家の外へ出て来てピラをうけとり「ごくらうさん」と声をかけたり、窓から顔を出してアピールを聴き入っている姿が多く見られた。

3・6集会の成功にふまえ、いよいよ開始された二期攻撃粉砕をかけて「3・30現地大集会」に最大動員をかちとるため、職場のすみずみから総決起していきこう！

全組各員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を